厚生労働省編一般職業適性検査

GATB
General Aptitude Test Battery

テストでわかること
知的能力／言語能力／数理能力／書記的知覚
空間判断力／形態知覚
運動共応／指先の器用さ／手腕の器用さ

自分は何が得意なのか能力的特徴を知る

仕事をするには、学習・訓練等で必要な知識や技能を身につけなければなりません。そのための基盤となる能力を測定する厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）。適性能が高いと、早く高いレベルまで身につけることのできる可能性が高いと言えます。高校1年の男子生徒の事例で、どのように活用されるのかを見てみます。

● GATB
個人結果票プラス
1／2
（指導者用）

GATBで測定される能力は9種類（紙筆検査のみの場合は7種類）。それぞれどのような能力なのか理解する（p7表参照）。

折れ線グラフの山は得意な能力、谷は苦手な能力を示している。特に得意な能力について注目する。
個人結果票の指導者用には、グラフの縦軸の目盛りが表示されるが、学生・生徒用では非表示。他の人の結果と比べて自分の能力が高いか低いかを知るためのものではなく、自分の中でどの能力が高いかを知るためのものである。

武くんのGATBの結果では、**Q**（書記的知覚）、**N**（数理能力）、**M**（手腕の器用さ）の順に得点が高い。120、109、108といずれも100点以上で、高校生の平均点を上回っている。他にも**G**（知的能力）、**K**（運動共応）は平均点以上。

指導者用には、得点（適性能得点）が表示されるが、学生・生徒用では非表示。

自分の得点の高い上位3つの能力は何か、それがどのような能力なのかを把握する。

自分の高い能力をどのような仕事の中で活かすことができるのか、能力と仕事とを関連づけて考える。

「得意な能力を仕事に活かす」という視点で職業や進路について考えるために、得点の高い能力①～③に関する仕事内容、職業分野、主な進路について確認する。
関心のある職業については、その職業に就くためのステップを詳しく調べる。

大学、短大、専門学校等への進学にあたって、職業分野と関連する学部等の種類を主な進路として便宜的に「理系」「文系」「デザイン系」「福祉系」「保健医療系」「ー（学部にはあまり関連がない職業分野）」に分類して表示されている。

武くん（高校2年男子）のGATBの結果

指導者用

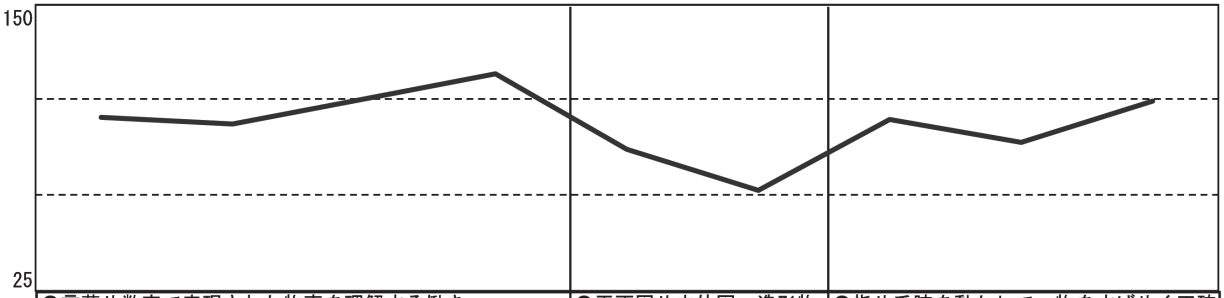
GATB 厚生労働省編一般職業適性検査

進路指導・職業指導用　一般社団法人 雇用問題研究会

個人結果票プラス 1／2

実施年月日 2019年6月20日　雇用高等学校　普通
1 年　A 組　16 番　雇用 武

■あなたの能力特徴　あなたの能力のうち、上位３位（①～③）の能力に注目しましょう



●言葉や数字で表現された物事を理解する働き　●平面図や立体図、造形物を理解する働き　●指や手腕を動かして、物をすばやく正確に取り扱う働き

G 知的能力	V 言語能力	N 数理能力	Q 書記的知覚	S 空間判断力	P 形態知覚	K 運動共応	F 指先の器用さ	M 手腕の器用さ
101	98	109	120	87	69	100	90	108
		②	①					③

■あなたの得点の高い能力①～③

① Q 書記的知覚 ➡ 文字や数字、記号の違いを見つける能力。また、日常生活での注意力。
② N 数理能力 ➡ 計算を正確に速く行ったり、問題を推理し、解く能力。
③ M 手腕の器用さ ➡ 物を置いたり、持ち替えたりするなど、手腕や手首を上手に動かす能力。

それぞれの能力は、下表の「仕事内容」に活かせます。

■あなたの得点の高い能力①～③と関係の深い職業・進路

ここでは、あなたの得点の高い能力①～③と関係の深い職業を記しています。
この検査では測定できないあなたの興味や性格なども考え、総合的に進路について検討しましょう。

能力の種類	仕事内容	能力と関係の深い職業分野	職業分野に関連する主な進路
① Q 書記的知覚	印刷物の校正、帳票の記載やチェック、表の作成作業などを行う。	●事務 ●機械・装置の運転看視、電気・機械設備の保守管理 ●養護・看護・保健医療 ●個人サービス、警備・巡視、警察・保安	◆文系 ◆理系 ◆福祉系、保健医療系 ◆学部にはあまり関連がない
② N 数理能力	各種計算、集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う。	●経理・会計 ●工学・技術の開発応用、自然科学系の研究 ●測定・分析 ●航空機・船舶の操縦	◆文系 ◆理系 ◆理系、保健医療系 ◆学部にはあまり関連がない
③ M 手腕の器用さ	ハンドルやレバーを操作する作業、道具を巧みに扱う作業を行う。	●動植物の採取・飼育・栽培、加工・組立、切削加工・造形、据付機関・建設機械の運転、車両等の運転、理容・美容	◆学部にはあまり関連がない

医療分野に関心、理系に傾く

秋の面談での話

県立高校普通科1年生
男子
武くん（仮名）

●テニスの部活に打ち込む

中学1年からテニスを続けている。小学生の時はずっと近所のチームで野球をやっていて甲子園に憧れてたりした。中学でテニス部に入ったのは、野球部がなかったから。校庭の広さの問題だったらしいけど、入学時は悔しく思った。結構強打者と言われてたのに。これで甲子園の夢はなくなったな、と。

でも、テニスもやってみると面白いもんで、だんだん熱中するようになった。練習にも真面目に頑張って取り組んだし、2年の時に市の大会でベスト8まで進んだ。高校でも迷わずテニス部に入った。

●医療の仕事

中3の時、テニスの練習中に足を骨折してしまった。しばらく通院したが、その時の病院の医師、看護師の対応がいまだに強く印象に残っている。それまで病気もケガもほとんどしたことがなかったこともあって不安だったが、看護師さんはどうすれば患者が安心できるかよくわかっていて、自然に温かく接してくれた。また、医師がケガの状態や今後の進め方などをわかりやすく説明してくれたので、自分で理解・納得して治療を受けられた。信頼できる専門家という感じだったし、率直に感謝の気持ちが生じた。多少日常生活に不自由が生じたけれど、治るまで前向きに通院を続けられたのではないかと思っている。

そこで医師や看護師に感じたのは、おそらく「プロフェッショナル」ということだと思うが、その時その場面で必要とされていることを最も適切に提供できるということ、それはそうしなければならないという厳しさを伴うわけだけど、やっぱりそれがプロだな、と。そして、日々の仕事そのものが患者に感謝されることに直結する。

それで医療分野に関心を持った。さすがに医者は無理だけど、医療関連の仕事はいろいろあるみたいなので、知りたいと思うようになった。

考えてみると、テニスって相手の嫌がるところに球を打つのが基本で、いかに裏をかくか、いかに打ち負かすかっていう競技。より意地悪になれたほうが勝ち。対戦競技は全部そうなのかもしれないけど。なんか医者と患者の関係というのと対極にあるみたいな気もして、正直、練習中に時々冷めた気分になることもある、最近。

●得意科目など

得意な科目は数学。暗算なんかはわりと楽にできるし、筋道立てて考えて問題を解くというのがいい。明快であいまいな部分がないというか。自分では理数系に向いてるのかなと思い、6月の進路希望調査では理系を選択した。

好きな科目は、体育とか生物。練習すれば上手くなる、ある程度結果が出る、というところが体育にはあるから。水泳やマラソンなどより、好きなのは球技系。生物も対象がはっきりしているというか、生き物はモノとして目に見えるからわかりやすい。

国語は嫌いじゃないけど、例えば文学作品の解釈なんて人それぞれのはずなのに、試験で「彼はその時どう思ったか」みたいな問題が出ると、正解なんてあるのかって気がしてどうも苦手。

社会の科目なんかも、歴史とか制度、システムっていうのは、過去にあった、あるいは今実在してるのかもしれないけど、どうもカタチのない概念の世界の話みたいで、あまり得意とは言えないかな。実体が確かなもののほうが好きなんだと思う。

●GATBを受けてみて

検査は結構な集中が必要で、疲れた。でも、結果を見ると納得できる気はした。書記的知覚というのは注意力みたいなものらしく、自分でもどちらかというと几帳面タイプだと思うし、細かいところに気がつくほう。よく注意深く観察しているね、と言われたりする。ガサツなのは嫌いだし。

数理能力が高いって出たのは嬉しい。大学に進学するつもりだが、理系の学部に傾いてきたかな。

実験したり、計算・集計して数値化されたデータを分析するとかいった勉強には興味がある。

医療関係の仕事には、通院していた病院の医師・スタッフの親切さが有難かったという経験があったから関心を持ったわけだけど、数理的な面を活かせる職業がないかなどについても知りたい。

担任教師から

●GATBとは

GATB：厚生労働省編一般職業適性検査は、普段の学校の試験などでは知ることのできない個人の能力を、9つの違った側面から多角的に測定し、今まで気づかなかった自分の能力面での特徴を知ることができる。それぞれの能力と職業とが関連づけられているので、進路選択の手がかりになる。

測定される能力（適性能）は、学習や訓練によって後から自分で身につけられる学力や技能とは違い、潜在能力である。

ある仕事を行うには、学習したり訓練するなどしてその仕事に必要な知識や技能を身につけなければならない。それらを身につけるための基盤となる能力が適性能であり、適性能が高いと、早く高いレベルまで身につけることのできる可能性が高いということだ。

●武くんのGATBの結果

GATBの結果では、Q（書記的知覚）、N（数理能力）、M（手腕の器用さ）の順に得点が高く、いずれも100点以上で高校生の平均点を上回っている。他にもG（知的能力）、K（運動共応）は平均点以上。

1位のQ（書記的知覚）は、印刷物の校正、帳票の記載やチェック、表の作成作業などを行う際に必要な能力であり、日常生活での注意力もこの能力に該当する。関連する職業分野には事務、機械・装置の運転看視、看護・保健医療、警備、保安などがある。

2位のN（数理能力）は、各種計算、集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う際に必要となる能力である。関連する職業分野には経理・会計、工学・技術の開発応用、測定・分析などがある。

科目では数学との関連が高い。武くんの数学の成績がよいことは頷ける。

3位のM（手腕の器用さ）は、ハンドルやレバーを操作する作業、道具を巧みに扱う作業を行う際に必要な能力である。関連する職業分野には加工・組立、造形、理容・美容などがある。

体育の中でも、マラソンや水泳より球技が好きだというのは、Mが高いからかもしれない。

●興味のある職業との関連

中学時代、ケガで長期間通院した際に感じた医療関係者への有難さが印象に残っていて、医療系の仕事に興味があるという武くん。

保健医療系の仕事としては、Qに関連する職業例には「作業療法士」「薬剤師」などがあり、Nに関連する職業例には「臨床検査技師」「診療放射線技師」がある。

職業名を聞いて、第一印象はどうだろう。イメージだけではなく、実際はどのような作業、仕事で成り立つ職業なのか探ってみてはどうだろうか。

そろそろ文理を最終的に決めなければならないので、これらを大学の進路を決めるヒントとし、これらの職業の仕事内容や求められる能力についてさらに調べてみてはどうか。

●GATBで測定される適性能

G	知的能力	説明・教示や諸原理・諸概念を理解したり、推理し、判断したりする能力。一般的な学習力。
V	言語能力	言語相互の関係および文章や句の意味を理解し、それを有効に使いこなす能力。
N	数理能力	計算を正確に速く行うとともに、応用問題を解き、推論する能力。
Q	書記的知覚	文字や数字を直感的に見分け、違いを見つけ、校正する能力。文字や数字に限らず、対象をすばやく知覚する能力。
S	空間判断力	立体形を理解したり、平面図から立体を想像したり、考えたりする能力。物体間の位置関係とその変化を正しく理解する能力。
P	形態知覚	物体あるいは図形を見比べて、その形や陰影、線の太さや長さなど細かい差異を正確に見分ける能力。
K	運動共応	データ入力等、眼で見ながら、手で迅速な運動を正しくコントロールする能力。
F	指先の器用さ	組立作業などに必要な指先の器用さ。小さいものを巧みに取り扱う能力。
M	手腕の器用さ	ハンドルやレバーを巧みに操作するなど、物を取り上げたり、定められた位置関係で正確にすばやく持ち替えたりするなどの、手腕や手首を巧みに動かす能力。